

金沢教育振興会だより

No. 88
2025/12

教育振興会からの話題提供

21世紀の教育を考えるシンポジウム2025 より

〈 テーマ 〉 今の教育(子育て)、これからの教育(子育て) 分かり合える・認め合える感性を育てるには、私達大人はいろいろな人や物事(行事・イベント等)と楽しく関わっていますか

☆日 時 2025年9月27日(土) PM 2:00~3:30
☆会 場 石川県文教会館 4階
☆パネリスト 林 泰三 氏 (金沢市PTA協議会 副会長)
割崎 泰 氏 (金沢市子ども会連合会 育成委員会副委員長)
林 良彦 氏 (金沢市教育委員会学力向上アドバイザー)
☆ファシリテーター 橋本 祐之 氏 (石川県文教会館 館長)



◆会長挨拶



金沢教育振興会 会長
大杉 繁 氏

大杉 今年は 6月頃から異常な暑さが続き、体調管理にご苦労されたのではないかと思います。そうした中、21世紀の教育を考えるシンポジウム2025を開催できたことを感謝しております。

金沢教育振興会では、毎年、その時々々の教育課題について話し合ってきました。現状の課題としては学校や会社などで、いじめ・不登校・ハラスメント・うつなどの問題が起きています。

2024年度のシンポジウムでは、そうした問題の根本に「互いに認め合う・分かり合う態度や気持ちが育っていないのではないか」と考え、「そうした気持ちや態度を育てるにはどうしたらよいか」を話し合いました。

その結果、「分かり合う前に、人と人とのつながりが希薄になっているという現状があり、まず、大人が人や物事と楽しくかかわる姿を子ども達に見せることが大切ではないか」という提言をいただきました。

そこで、本年度は昨年度の提言を踏まえて協議題を設定しました。グループ討議の場で自分の思いを語り、学び合い、そして日常生活・子育て・指導に生かしていただければと思っています。参加してよかった思える会にと願っております。

◆ファシリテーター挨拶とパネラー紹介、趣旨説明

石川県文教会館 館長
金沢教育振興会 副会長
橋本 祐之 氏



橋本 昨年度のシンポジウムでは、人と人がつながって信頼関係をつくり、お互いが気持ちよく生活するには、「互いを分かり合い、認め合う感性(気持ちや態度)を育てること」が必要と考え、「どんなことを心がけ、どうすればよいか」を課題として話し合いました。その結果、人と人とのかかわりが希薄になっている現状から考え、大人がいろいろな人や物事と楽しく関わっている姿を見せることが大切でいかとの貴重な提言を頂きました。

そこで、「分かり合える・認め合える感性を育てるには、まず、大人が楽しくかかわっている姿を見せることが大切ではないか」と仮説を立てて、今年度は「私達大人は、いろいろな人や物事(行事・イベント等)と楽しく関わっていますか」というテーマを設定しました。このテーマに迫るため、次の2点を柱として話し合いを進めます。

協議題1…いろいろな人や物事と楽しく関わり合うことができているですか。

協議題2…いろいろな人や物事と楽しく関わり合うには、どんなことを心がけ、どうすればよいか。

まずは、パネラーに各々の立場から協議題1の現状や問題点などをお話して頂き、それを受けてグループで話し合った内容を発表して深めていきたいと思っています。ご協力をお願いします。

◇いろいろな人や物事と楽しく関わり合うことができますか。

林(隼) PTA では、挨拶運動・見守り・行事等でかわり合える関係を得ている。そのおかげで、先生・地域の方・親御さんとの顔の見え分り合える関係が出来て、子育ての安心感に繋がっている。一方、個人情報保護で、同じクラスの方の連絡先も分からない時、大きな不安を感じる。子どもが遊びに行くといっても住宅地図で見てやっと分かる状態で大人同士の横のつながりの希薄さがある。地域で子どもを見守り育てていかなければならないという環境を作るのは親の義務。セーフティーネットを作り、色々な方と繋がって網の目を小さくし、網の目から子どもが漏れないような環境を作りたい。色々な制約があっても、PTA 活動をする時、少しでも自分たちで環境を作っていく。待っていても手に入らないのが、今の現状で課題だ。

割崎 子ども会連合会は幼児から高校生までの子ども・保護者を含めて行事を行う団体。一番大きい行事はちょうちん行列。コロナ等で行事がなくなり、新たにやろうとすると分からないことがある。また参加する大人がいつも同じ。新しい大人の方をいかに呼ぶか。子どもと大人も参加できる行事を企画してもなかなか一緒に参加してもらえない。地域の行事にも来てもらえない。行事に参加すると大人同士の繋がりが生まれる。行事の準備は一人ではできないので。体験しているから何かあった時に使えるやり方を覚えられる。最近災害が多い、テントはこうやって立てられる、火を起こせる等、少し身につけたらよい。だから地域の行事は小さいことでもちよつとずつやらなければと、今も頑張っている。大人同士で行事後の会につながりもできる。他の地域の情報も集めながら次の行事を進めたい。子どもが楽しい行事を一番したい。大人が楽しくやれば子どももやってみようとなる。

林(良) 自分が楽しくというより、出会った子ども達の姿をお話します。一つ目は、4年生の国語の学習で点字を打つ体験はしたが、点字を使っている人に会ったことがなかった。そこで点字で手紙を打って、ゲストの方に盲導犬と共に来ていただいた。子ども達は点字を勉強して知っていたが、実際にゲストが読んでいる姿を見た時、初めて「点字は人と人を繋ぐ言葉なんだ」と実感し分かったという表情をした。ある子の手紙では、点字を書き間違えて、サッカーをさっきとしたが、ゲストの方はさっきと読んですぐにサッカーと言い直してくれた。子どもは人とかかわ



って何か得ることがあると印象的な場面だった。

二つ目は、私が校長の時、6年生は二泊三日の合宿。合宿は日常生活では体験できない自然体験をするが、普段の生活でしなくてもいいことも沢山しなくてはいけない。トイレのスリッパを並べる・お風呂の桶を並べる・夜寝る時静かにする等。子ども達は普段生活でしない経験なので失敗する。一泊二日だと失敗して終わりだが、二泊三日だと失敗をもう一度やり直す機会があり小さな成功体験を生む。小学生だから、失敗してもいい、何回でも失敗すればいい。失敗してもやり直す機会を沢山もらい、褒められたり叱られたり体験する姿を沢山見てきた。

橋本 それでは、今のパネリストの意見を踏まえて「フロアーの方々」も10分程度話し合い、その後代表の方が結果を発表して下さい。

(グループ討議①10分間)

1班 町会やマンションで、間違えて違う駐車場に停めているが誰か分からない。管理会社に問い合わせても個人情報保護から教えてもらえない。また商店街が寂れ、近所の人とのコミュニケーションもなくなった。銭湯も減った。昔は裸のつきあいでコミュニケーションがとれた。私も子どもの頃銭湯に飛び込んで叱られた。大人が子どもを叱って悪いことは駄目だと言ってくれる場がなくなってきている。

2班 関われ合うことは、できている時とできていない時がある。できていない時の理由は、相手意識が強く、立場や相手のことばかり考え、自分自身をさらけ出すことができない。その積み重ねで、段々その人との関係性を築き難くなり楽しく関われない。小学校現場で行事も縮小され、みんなで何かをすることが少なくなって、開催しても時間短縮している。みんなで楽しんだり悲しんだり感動したり共有する場がどんどん少なくなっている。みんなで共有する場が関わりを改善するには大切だ。

3班 今、学校で子どもが一人一台パソコンを持ち、困ったらパソコンに聞いている。だからこそデジタルではないリアルな本物の体験や人との関わりがこれまで以上に必要ではないか。リアルな人や物事と子ども達がしっかりと出会えるような学校での仕掛けをもっと大事にしていかなければいけない。地域でもSDGs等の今日的課題に大人を巻き込んでいく仕掛けを創り出し、若い人も楽しくできるように巻き込む。しっかりと自分を出せる場を作ることが教育にとってすごく大事。楽しさだけではなく、自分たちの育ってきた生き様を振り返ると、叱られたり失敗したりしながら学んでいることが多い。子ども達が失敗からも学んでいけることも大切だ。

4班 地域で子どもを見ている教育関係・児童館等の方と保護者の方の繋がりが得られない。地域活動で、子どもが減り、親同士の繋がりが希薄。高校のPTAは、400人位の保護者の5%の20人位の希望者で運営。PTAに携わっている人は楽しく熱心に

関わりを持っている。意識・関心の高い人以外を巻き込んでいくのが課題。スマホが普及した時代環境を踏まえて、人や地域との繋がりを築いていく。

5班 そもそも人間はなぜ生きるのか。親も教育関係者も、それを子ども達に伝える時間や考える時間が必要ではないか。子ども同士の関わりを見ていると、子どもは理解して貰いたいと思っている。他者理解する気持ちを持つための教育が必要。人がしゃべっている時にいきなり話しかける子ども。人との関わりの中にもルールはある。最後まで話し終わってから話しかけるとか、間を読むとか、そのルールが分からない子がいる。教育で人との関わり方を学習させて頂いたら、もっと友達同士で仲良く話す時間ができるのではないか。



6班 このテーマは、あなた自身はと問われ、色々な人・色々な物事・楽しくと三つ聞かれている。色々な人や物事との関わりについては、メンバー4人ともそれぞれの仕事や立場で関わっている。楽しくについては別れる。楽しいとは言えない、むしろ辛いことも多いから。だけど、生きがい・やりがいを感じていると意味があることだと思って関わっている。楽しくというテーマにストレートに楽しいとは答えにくい。個人的な意見だが楽しければいいのかという問題を投げかけたい。

橋本 多様なご意見ありがとうございます。時間もあまりないので、次のテーマに移ります。

◇いろいろな人や物事と楽しく関わり合うには、どんなことを心がけ、どうすればよいか

林(良) 子どもの姿として、運動会で、練習に参加できない子がいた。一番困っているのは本人。練習中は大人が付き添い、プログラムやダンスのビデオを見ていた。当日は、運動場を2階から見てダンスになったらそこで踊っていた。いつもみんなの所になくても、参加できる場所だけ参加する関わり方も認める。多様な関わり方・参加のあり方の1つ。

2年生のミニトマト観察で、タブレットで写真を撮り紹介し、デジタルで分からない手触りやにおいては、実物のミニトマトに戻る。デジタルと実物を行ったり来たりするデジタルでの関わり方もある。色々なかかわり方がある。もう一つ、関わりにはマイナスもプラスもある。いつも楽しいことが起こるわけではない。関わりと友だちづくりだけでなく、仲間づくりもある。何かの目的のために、人は助け合ったり協力し合ったり、時には意見が違っても共に目的に向かう関わりをしなければならない。

割崎 皆さんの色々な意見が非常に参考になりました。人間はどうして生きているのか。動物や生物との関わりもあり、生まれて一人で生きていくものも群れをなして生きていくものもある。人間は、自

分がいて子どもが生まれたら相手をしなくてはならない。子どもも色々意見を発するし、こちらもしてあげていないこともある。生かされている訳をいつも考え、生きている間は出来る範囲で出来ることをしようと心掛け、相手にもどうしたらいいかと思って生活している。色々な人がいて非常に大変なこともあるが、生きている間は何かしようと思う。

林(素) どうすれば楽しく関わられるかという課題はすごく難しいが、どう関わっていくかが大事。主体性を持っていかに取り組めるかが一番。PTAも、やらされ感があると負担感にとらわれの主体性が大切。同じ行事もリーダーで全く違うものに様変わりする。負担だから減らず、早く終わりたいとなる。何のためにするのか理解されていない。子ども達に何を学んで欲しいのか。楽しんでわくわくしてほしい。そんな目的がない。自分のことばかり考えてしまう。ゴール設定が重要となる。そこから逆算が大切。楽しむには目的意識を共有し、その中で主体的になることが大切。やりたい人ばかり集まっても困る。バランスが大事。私は保育園、小学校、学童の役員をしていて、妻は中学校の役員をしている。やりたいわけではないが誰かがやらなければ組織は成り立たないので誰もいなければやりますと手を挙げ結果同じ人ばかりになる。PTAだけでなく町会、商店街等でも同様。同じ考え方の人がばかりでなく、多様性が大事。多様でないだと本来のニーズに応えられない。色々な立場の方が関わる環境を作ることが大切。色々な立場の方が少しずつ関わって組織を作って意見を出し合っていくのがいいと思っている。

(グループ討議@10分間)

橋本 今度は、6班から発表して下さい。

6班 楽しく関わる場をつくること。楽しければというよりも、いい結果をもたらす関わり方にも心を砕くべきということ。それから、運営側が目的意識



をしっかり持つこと。何のためにやるのかをしっかりとっておさえイベント等を企画・運営すること。同じ目標を持って共同作業をすればいいが、その前にしっかりと参加者で

すり合わせをすること。これは目的意識とも絡んでくる。

5班 方法論ではなく、目的にプラスで志が大事。人間がなぜ生きるのかに通ずるが、教育がすごく重要な分野。子どもだけでなく我々大人も、人と人が楽しく関わるのが、なぜ必要なのかを深く掘り下げるべきではないか。私は企業に勤めているが、企業は利益を出さないと生活が成り立たないし潰れたら生活できない。教職の方はそれが無い。危機感を持って教育に携わって、どうしたらいいのかをもっともっと深く考えて頂きたい。

4班 PTAとして、事業等をやる時、会員間の熱量の差のバランスをとることが大切。意見交換をし達成感はみんなで共有していくことも大切。昨今、子ども達のスマホでのトラブルがないように、教育する必要を感じる。コロナ禍を経て大人もリモート会議等、リアルコミュニケーションを大切にしていかなければならないと思う。

3班 心がけるのキーワードは、安心感、楽しい、失敗してもいい等が出た。最終的には一体何のためということ。どんな多様性の時代でも、人は人に支えられて生きている。生きている一つ一つの営みに学校、学校行事、PTA活動、地域の活動、子連の活動があり、人は人に支えられてそれらをやっている。一つのミスが致命傷になる時代で、そういう怖い気持ちを一方で持ってしまう。私たち一人一人が関わり合う時に心掛けなければならないのは、大丈夫だよと人と接すること、寛容であること、失敗してもいいんだよということ。その姿が楽しく見えれば、あんな風になりたいと思う人が増えていく。子どもも含めて。そんな姿を大事にしながら、やはり人は人に支えられて生きているのだということの一つ置いて、この時代を見つめていこうと思う。



2班 パネリストのお話から、何のためにという目的がすごく大事だと聞いた。今回のテーマも、色々な人が物事と何のために楽しく関わり合うのかは、人生をより充実したものにし、自分の人生は素敵だったと思って死ぬるようになることではないか。よりよい人間関係を築くために何をすればいいかと考えた結果、一つ目は、相手に与えるという「ギブの精神」がすごく大事。なぜ人間は生きるのか、自分自身が持っている能力を使って相手に与えるということがすごく大事。二つ目は「エンパシー」。共感する力も人間関係を築いていく中ですごく大事。相手の悩み、考え、立場に立って考える力が必要。この二つを繰り返し経験し、失敗したり成功したりいろんな経験を重ねていく中で、分かり合える認め合える感性が育めるのではないか。

1班 認め合える感性を育てる取組をお話します。私は障害を持つ子どもが通う特別支援学校のPTA会長です。まずは知って貰う理解して貰うことが大事と考え、子ども達を連れて商店街へ行き、「うちの学校こんなことをやっています。皆さんお願いします。」と伝えた。子ども達は自分たちの言葉で「私たちはこんな障害があるけれど、こんな活動をしています。また学校に遊びに来てください。」と交流の場を持った。声をかけるだけで不審者になる時代に、感性を育むことはできない。そこで、商店街へ連れて行って知って貰うことにした。子ども達の経

験は圧倒的に少ないので、五感を育てることが感性を育てることになる。自然を体験することも大事。昔は、転んで怪我をしても、傷バン貼っときなさいという時代だった。今は、親が先に手を出してしまい子どもの引き出しが育たない。振り返れば、昭和の時代が良かったと思う。

橋本 それぞれの参加者が熱く語っていた他席真下なので、時間がきてしまいました。まとめを司会に委ねて閉じたいと思います。パネリストの皆様。フロアーの皆様、本日はありがとうございました。

司会 時間が過ぎていきますので、私の感想をまとめに返させていただきます。人間はなんで生きるのかと言う意見から深く考えさせられました。人間は「人」の「間」と書きます。自分だけではなく、周りの人を意識しなければ人間とは言えません。昭和で育った子どもの頃、風呂屋で叩かれたことがあり、家に帰って母に話したら母からも叱られた。地域の中で子どもを育てようという風潮がありました。今は個人主義で自分の家庭が一番。SNSも新聞もテレビも悪いことばかりを取り上げている現状を昭和みたいに「誰かが誰かのために努力をする」。そんなヒーローを賞賛する社会の到来が人との関わりを大事にする時代の幕開けになると思いました。



編集後記

人との繋がりが希薄になっている現在を象徴するニュースが流れました。自分の悩みやストレスをチャットGPT(チャッピー)に相談する若者が増えているというのです。リアルな人との関わりは自分を犠牲にすることを強られることもありますが、それが人との付き合いだと思ふのは、古い人間の考えなのでしょうか。「子ども達と人に関わることの大切さを見せるためには、共通の目的を持ち、共通の物事に取り組む事柄に取り組む姿を見せることが大切だ」と、シンポジウムに参加して感じました。

金沢教育振興会だより 88号

発行日 令和7年12月10日

発行 金沢教育振興会 TEL(076)222-1370
金沢市尾山町10-5 石川県文教会館内

編集責任者 会長 大杉 繁

印刷所 (株)小林太一印刷所 金沢市湊1-110